

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年十月度 入選句（投稿総数二千五百六十六句・一般投句数六百十七句）

特選

吸ひ込まれさうな青空 小鳥 来る

大垣市

野村 多佳子

秋が来ると小鳥が来、小鳥がやつて来ると秋になります。俳句で小鳥と言えば秋。日本に飛来する小鳥の尉鶺鴒や連雀・鶺鴒などを言いこれらが飛び交い始めるといかにも秋らしくなつてきます。この句のように吸ひ込まれさうな青空がみられるのもこのころで、心の弾みが伝わってくる明るい一句となりました。

良夜 この 双 眼 鏡 の 月 の 貌

大垣市

草野 恵子

月の兎信じて祖母の背に負はる と言う句読んだことあります。私たちが育つて来たころの月はお伽ばなし的な夢ですが、現代の月はあのクレーターに月の起源が見えるとか科学的な探究の夢です。“良夜この”と言うフレーズにはしかながらという思いが見える現実的な月の観察、月の観賞と言えるでしょうか。夢と現実を肯定しての良夜を楽しんでいるのです。

父 祖 の 田 の 水 の 匂 ひ や 朝 の 霧

大垣市

今津 正元

清々しい朝の霧に乗って先祖たちが田見廻りに来ているのかも知れません。その確かさはその田の水の匂いがそれを証明しています。死に変わり生き変りして打つ田かなを想起させる一句です。

秀逸

天 上 に 星 を 集 め て 稲 の 村

大垣市

今津 正元

村 守 る 輪 中 の 堤 曼 珠 沙 華

不破郡垂井町

富田 実郎

寝 姿 も い つ か 母 似 の 菊 枕

大垣市

服部 聖治

柿 は さ む 棹 の し な う や 空 の 青

大垣市

岡田 あや子

運 動 会 白 線 新 た 午 後 の 部 へ

大垣市

宮脇 和子

空 透 み て 水 澄 み て 今日 好 き 日 か な

大垣市

米川 弘子

秋 あ か ね 両 手 広 げ て 迎 へ け り

大垣市

町野 眞佐子

嫁 ぐ 娘 に 持 た す 新 米 一 ふ く ろ

大垣市

末守 節子

虫 の 闇 溶 け 込 み さ う な こ の 心

大垣市

北浦 典子

月 明 か り ビ ル 影 ビ ル に 写 し け り

大垣市

鶴田 信子

入選

女らの足並そろろう新涼の風受けて
霧の宿妻とは違う薬飲む
さよならのチャイム鳴りけり秋桜
渋滞の窓それぞれに秋の空
白桔梗どこか律儀な妻に似て
名月や空を見上げる陶狸
農を継ぐ子の縁決まる菊日和
校庭に帰りのチャイム夕紅葉
田に溜る水澄み空を映しけり
幾度も水面にふれて赤とんぼ

大垣市	奥田 加代子
東京都世田谷区	関戸 信治
大垣市	三輪 千芽
大垣市	遠藤 加容子
不破郡垂井町	内海 白涛
揖斐郡池田町	五十川 直靖
大垣市	中山 あや子
大垣市	野村 多佳子
大垣市	山田 千歌子
安八郡神戸町	清水 勝子

入選

夕明かり秋の匂ひと言ふ子かな
赤とんぼ楽しくとんで鬼ごっこ
風にのる紙の飛行機文化の日
秋麗といふオアシスを一人旅
どんぐりに残る子の手の温みかな
秋うららフランスパンをまるかじり
柿ひとつ置かれて妻の走り書き
巡り来る歳月早し花すすき
豊年の風渡りゆく輪中かな
青空に天守まばゆし小鳥来る

大垣市	北島 暁子
大垣市	幅 起志子
静岡県沼津市	堀野 一郎
大垣市	大西 誠一
安八郡神戸町	高橋 泰
大垣市	高木 佐知子
大垣市	名和 よちゑ
不破郡垂井町	臼井 梅乃
養老郡養老町	田中 紫香
大垣市	神野 武彦

選者吟

熟柿落つ空の青さに見惚れゐて